



国際ロータリー第2660地区

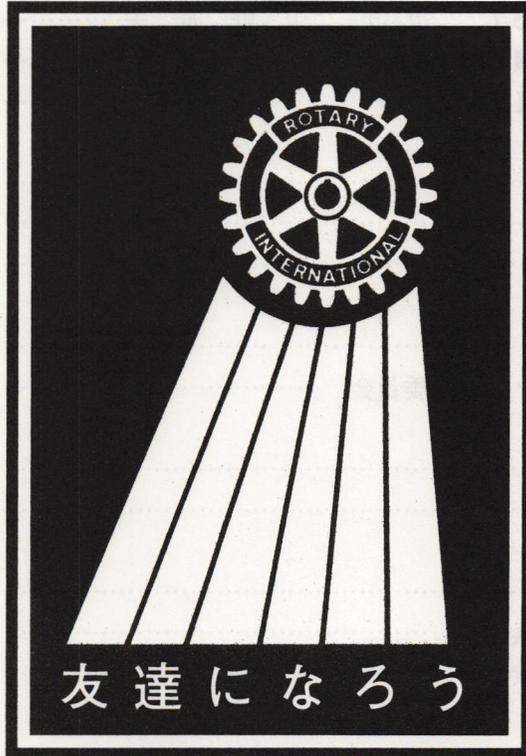
地区委員会
活動計画書

1994～'95年度

ガバナー 中野 董夫

1994年7月9日(土)
於：都ホテル大阪

1994～95年度国際ロータリー・テーマ



W.H.

ウィリアムH・ハントレー

1994～95年度国際ロータリー会長

目 次

扉

目 次

| | | |
|-------------------|-------------|----|
| 合同地区委員会に当って | ガバナー 中野 董 夫 | 5 |
| 地区ガバナー指名委員会 | | 8 |
| 意義ある業績賞委員会 | | 9 |
| ク ラ ブ 奉 仕 部 門 | | |
| 会員増強委員会 | | 10 |
| 広報・雑誌委員会 | | 11 |
| 規定・情報委員会 | | 12 |
| 職 業 奉 仕 部 門 | | |
| 職業奉仕委員会 | | 14 |
| ロータリーボランティア活動委員会 | | 15 |
| 社 会 奉 仕 部 門 | | |
| 社会奉仕委員会 | | 17 |
| 環境保全委員会 | | 18 |
| 青 少 年 奉 仕 部 門 | | |
| 青少年活動委員会 | | 20 |
| ローターアクト委員会 | | 21 |
| インターアクト委員会 | | 24 |
| 国 際 奉 仕 部 門 | | |
| 世界社会奉仕委員会 | | 25 |
| 青少年交換委員会 | | 26 |
| 国際交流・平和委員会 | | 32 |
| ロ ー タ リ ー 財 団 部 門 | | |
| ロータリー財団委員会 | | 34 |
| 財団国際親善奨学金委員会 | | 37 |
| 財団増進委員会 | | 40 |
| 財団学友委員会 | | 40 |
| 研究グループ交換委員会 | | 42 |
| 財団情報委員会 | | 44 |
| 米 山 奨 学 部 門 | | |
| 米山奨学委員会 | | 45 |
| 拡 大 部 門 | | |
| 拡大委員会 | | 48 |
| ロータリーの友 | | 49 |
| 財務委員会 | | 50 |
| 地区大会 | | 52 |

合同地区委員会プログラム

司会進行 地区代表幹事補佐

| | | |
|-------------|--|--|
| 10:00 | 登録 | |
| 10:30 | 開会、点鐘 ロータリーソング「奉仕の理想」 | ガバナー 中野 董夫 |
| 10:35~11:00 | 本 会 議 参加者紹介 就任挨拶 退任ご挨拶 | ガバナー 中野 董夫 ガバナー 中野 董夫 直前ガバナー 大森 慈祥 |
| 11:00~12:00 | 委員会本年度の方針と活動計画 | 各委員会 委員長 |
| 12:00~13:00 | 休憩・昼食 | |
| 13:00~14:30 | 委員会本年度の方針と活動計画 | 各委員会 委員長 |
| 14:30~14:45 | 休 憩 | |
| 14:45~15:05 | 本 会 議 地区資金の運用について ガバナー事務所の運営について 地区年次大会について | 財務委員長 地区代表幹事 大会委員長 |
| 15:05~15:20 | 質 疑 応 答 | |
| 15:20~15:40 | 閉会の挨拶 ロータリーソング（手に手つないで） 閉会・点鐘 | ガバナーノミニー 熊沢 忠躬 ガバナーノミニー 熊沢 忠躬 |

合同地区委員会開催に当って

ガバナー 中野 董 夫

今年の3月10日から 3月18日まで米国カリフォルニア州アナハイムで開催されました1994年国際協議会の第1回本会議では、開会にあたっての諸行事のあとでビル・ハントレー会長エレクトのメッセージがありました。その中でまず、1994-95ロータリー年度特別強調事項として、Community Concernsという方針が示されました。日本語訳では「地域への関心事」となっています。私たちに配布された文書の中には「社会への思いやり」という訳もありました。この強調事項の意味はビル・ハントレー氏の言葉によれば、

「ロータリアンとして私たちは社会の真のニーズを見極めなければなりません。そして、自身がいいと思う通り一遍の援助を提供するだけであってはなりません。」
ということです。すなわち我々が奉仕する地域社会の真のニーズを見出すことで始まる奉仕です。またCommunityの意味は「私の社会、あなたの社会、そして世界社会」のことで、地元、地域、全国、又は国際レベルで我々奉仕する人々が含まれます。

特別強調事項を実施するにあたって我々の地区に「社会への思いやり」委員会を設置しませんが、地区職業奉仕委員会、国際奉仕委員会、社会奉仕委員会に協力をお願いいたします。

ハントレー氏はまた我々の活動を細分化することに疑問を呈しました。例えば、社会奉仕と世界社会奉仕に本当の差があるかどうかということです。このような考えに基づいて地区協議会についてテーマ別のグループを作ろうという新提案が示されましたが、その内容は不十分で矛盾するところもありましたので、今回の協議会は従来通りのグループ分けにいたしました。

このメッセージの最後の部分で、ハントレー年度のテーマが示されました。それは、『Be a Friend !』です。

日本語訳は「友達になろう」となっていますが、彼の解説を聞いていると、むしろ「友達であれ」と訳した方がより近いのではないかと考えられます。Be a Friendというテーマは言葉が短いだけに含蓄は深いように思われます。私は地区のテーマは特につく

らずに、Be a Friend という共通のテーマをかかげたいと思います。そして特別強調事項「Community Concerns」に配慮して次の一年間に臨みたいと思っております。次に私が国際協議会であらためて感銘を受けたことの一つは、第5回本会議のロータリー財団管理委員ジョナサン B・マジヤグベの「会員増強と拡大：将来を築く」という講演でした。増強と拡大の強調についてPETSでお話したところ、お前はアナハイムに行って洗脳されて来たというご指摘を何人かの方から受けましたが、まさにその通りであります。世界的に見て、ロータリーの会員総数は純増を記録していますが、それは新クラブの結成のおかげであり、既存ロータリー・クラブでは減少しております。このことは当地区でも例外ではないように思えます。世界中では我々の奉仕を必要としている人たちは増加する一方です。会員の減少はその奉仕を実践するロータリアンの数が減っているということ意味します。それは財政の面にも大きな影響を及ぼします。すなわち、人頭分担金からの収入の減少を招き、対外的にはロータリーのイメージを傷つけることにもなりかねません。毎年、約10パーセントの退会会員を喪失することは不可避です。それならば毎年同率の会員増強に努力するべきではないでしょうか。新会員の選考や推薦する所定の手続は守られねばなりません、我々のクラブは程よいサイズであるとか、会員をふやすと質が低下する、例会場が狭くなるなどの常套句で、ロータリアンとして入会する見込のある人を見失うようなことがあってはならないのです。

国際ロータリー元会長、故リチャード・エバンス氏は、「ポール・ハリスのみを除き、すべてのロータリアンは、誰かがロータリーを分かち、入会を勧めてくれてからロータリーに入ったのであり、私たち全員に、誰かにロータリーを分かちつとめがあるのです。」といわれました。この言葉は今の時代にも真理であり続けていると思います。私たちはロータリー綱領の第1である、「奉仕の機会として知り合いを広めることを鼓吹、育成すること」を実践しなければならないと思います。

最後に、先にも述べましたがロータリーの簡素化についてであります。前年度山中D P Gの年度のダクターマンR I会長が、毎年R I会長が変る度に新方針が打ち出され、その積み重ねで複雑になった国際ロータリーのプログラムを簡素化することにしました。それを3年計画で実行することにし、ダクターマン、バース両会長を経て、ハントレー会長で3年目になります。プログラムを減らし、文書を減らすということですが、ガバナーは毎年交替するわけですから、正確に判定することは大変難しいことです。次の年度で減少す

るプログラムは Task Force で、10あったものをポリオ・プラス実行グループと
会員増強実行グループの2つを残し、後は廃止されます。

文書の簡素化につきましてはさきほど申し上げましたように比較が難しいのでよく分か
りませんが、当地区業務に於いても努力したいと思います。

以上、国際協議会に参加して得ました情報を基に私の指針の一旦を述べさせて頂きまし
たが、地区活動の源泉は皆様方の活力によって支えられるものであります。私自身もこれ
から一層勉強努力いたしますと共に先輩P.Gが築かれたR. I. 第2660地区の歴史を汚
すことなく微力を捧げたい覚悟でございます。

地区ガバナー指名委員会

| | | | |
|-----|-------------------|----|---------------------|
| 委員長 | 大森 慈 祥 (茨 木) | 委員 | 坂 東 宏 (吹 田) |
| 委員 | 伊 藤 恭 一 (大 阪) | 同 | 松 本 良 諄 (大 阪 東) |
| 同 | 伊 瀬 芳 吉 (池 田) | 同 | 古 田 敬 三 (大 阪) |
| 同 | 種 田 憲 次 (大 阪 住 吉) | 同 | 武 尾 敬 之 助 (大 阪 西 北) |
| 同 | 戸 田 孝 (八 尾) | 同 | 廣 瀬 勘 一 郎 (大 阪 西 南) |
| 同 | 世 戸 一 夫 (大 阪 難 波) | 同 | 菅 生 浩 三 (大 阪 北) |
| 同 | 中 村 俊 一 (東 大 阪) | 同 | 山 中 文 和 (大 阪 南) |
| 同 | 中 西 正 二 (大 阪 西) | | |

- 1) 地区ガバナー指名委員会規約に基づき、ガバナー月信2号において、1996～'97年度ガバナー・ノミネー候補者の指名案を各クラブより提出するよう要請し、その最終期限を9月末日とする。
- 2) 10月1日以後、早い時期に指名委員会を開催し、候補者の指名をする事とし、ガバナー月信6号又は7号で公示し、7号か8号でガバナー・ノミネーの宣言を行う。

意義ある業績賞委員会

委員長 大森 慈 祥 (茨 木)

委 員 菅 生 浩 三 (大 阪 北)

同 山 中 文 和 (大 阪 南)

1) ガバナー月信2号において選定基準と委員会に関する発生を行い、各クラブからの申請期限を10月末日とすることを公示する。

(申請手続きは手続き要覧42～43ページに記載)

2) 12月1日までに選考委員会を開催し、5クラブを限度として受賞クラブを選定し、ガバナーに送達する。

3) 各ロータリークラブに対して、奉仕活動実践の実績を積極的に申請するように呼びかける。

ク ラ ブ 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 大 森 慈 祥 (茨 木)

会 員 増 強 委 員 会

委員長 山 崎 啓 一 (大阪平野)

副委員長 八 田 昌 三 (豊 中南)

委 員 西 村 淳 (大阪平野)

同 高 田 克 明 (茨 木)

同 田 中 研 一 (大阪東南)

会員増強は、ロータリー活動の活力源であり、会員増強なくしてロータリーの発展はないといわれている。

会員増強の重要性は、クラブ会員1人1人が奉仕の理念に共鳴できる誠実な新会員獲得のペースを絶えず心掛けることでもあります。

各クラブにおいてそれぞれの実情に応じた計画を立案し、積極的に会員増強に努めていただきたい。

1. 各クラブで会員増強推進フォーラムを企画していただき、当地区増強目標を10%増(拡大を除く)とする。
2. ロータリー年度はじめ、各クラブの会員増強委員会において、過去5年間の会員増強の推移や傾向を調査し、現実的な増強目標をたてていただきたい。
3. 職業分類の原則は、ロータリーに活力と多様性をもたらす源泉となっていることから、8月31日以前の出来るだけ早い時期に、会員増強委員会並びに職業分類委員会が協調して地域の職業分類を再調査し、増強にあたって充填すべき空席をクラブ会員に明示していただき、この点からの増強推進に努めていただきたい。

広報・雑誌委員会

| | |
|------|-------------|
| 委員長 | 清野耕作(茨木) |
| 副委員長 | 竹田正司(大阪心斎橋) |
| 委員 | 福西幸夫(大阪心斎橋) |
| 同 | 木戸栄久(大阪) |
| 同 | 小松陽一郎(大阪阪和) |
| 同 | 木村孝(大阪北) |

〔1〕 クラブ広報委員長会議の開催

年度の早い時期に上記会議の開催

各クラブの広報活動を検討し、情報の提供を依頼する。

〔2〕 報道各社との懇談会

ガバナー事務所の固定化に伴い、これをPRすると共にガバナー、担当パストガバナーの出席を頂いて、マスコミ各社との懇談を行う。

〔3〕 ロータリー広報ニュースの発行、送付

各クラブより寄せられた情報をロータリーニュースとして発行、送付。

〔4〕 ビデオ・スライド銀行のPR

現在保有する作品の目録を作成、各クラブへ送付、活用の依頼をする。

規定・情報委員会

| | | |
|------|-------------|--------------|
| 委員長 | 土井正裕(大阪北) | [卓話銀行担当] |
| 副委員長 | 大原健司(大阪東) | 伊藤徳次郎(吹田) |
| 委員 | 赤根賢治(大阪阪和) | 橋本崇志(大阪北) |
| 同 | 田中寿秋(大阪なにわ) | 小林勝(大阪ちゃやまち) |
| 同 | 向井伸太(東大阪) | [文献担当] |
| 同 | 島津禮次(茨木) | 四稜行雄(大阪阪南) |

1. ロータリー情報の周知。

- 1) 「第1回・クラブ規定情報委員長会議」を1994年8月下旬～9月上旬に開催し、地区規定情報委員会の本年度活動計画を説明するとともに、
 - a) 『ロータリー情報提供のためのシステム・マニュアル(再改訂版)』および『ロータリー情報基本編“ご存知ですか?”』の利用を奨める。
 - b) ロータリーの規定および情報に関するクラブ委員長の質問に答える。
- ロ) クラブおよびロータリアンからのロータリーの規定および情報の関する質問に、随時答える。

2. 1995年規定審議会に関連した活動。

1995年規定審議会(1995年1月23～27日、カラカスで開催)に関連して、次の活動を行う。

- イ) 規定審議会に提案された全立法案を収録した立法案集が、1994年9月23日までにR I事務総長から各クラブ幹事に送付されるので、10月に「第2回・クラブ規定情報委員長会議」を開催し、各立法案件に関するクラブの意見(賛否)を地区に提出するようお願いする。
- ロ) クラブから提出された意見を整理集約し、地区委員会の意見を付して、地区代表議員および補欠代表議員に提出(説明)する。
- ハ) 規定審議会で採択された案件が、1995年3月16日までにR I事務総長から各クラ

ブ幹事宛に送付されるので、3月下旬以降に「第3回・クラブ規定情報委員長会議」を開催し、採択された主要案件の内容をクラブ委員長に説明する。

あわせて、クラブがR Iに対して異議申し立てをする場合の手続きを説明する。

二) 規定審議会で採択された主要案件は、地区大会の会長幹事懇談会、次年度のための地区協議会の部門別協議会で説明する。

3. 卓話銀行。

再発足3年目を迎えるに当たり、登録講師の一部を入れ換えるとともに、年度開始前に全クラブに講師名簿を送付し、利用をお奨めする。

4. ロータリーに関する文献・資料の収料の収集整理。

ガバナー事務所の固定化が実現した機会に、ロータリーに関する文献および資料の収集整理を始める。

職 業 奉 仕 部 門

担当パスト・カバナー 松 本 良 諄 (大 阪 東)

職 業 奉 仕 委 員 会

委員長 浅 沼 清太郎 (大 阪)

副委員長 北 村 巖 (大阪梅田)

委 員 山 田 潤太郎 (大 阪)

同 河 上 英 夫 (大阪東)

同 久 我 三 郎 (大阪南)

1. 基 本 方 針

職業奉仕は、会員個人個人が企業における職業活動において常に職業倫理の向上を目指し活動する。ロータリー活動中最も基本的で重要な奉仕活動であり、クラブは会員のこの活動を鼓吹育成する任務を担っている。

当委員会は、この職業奉仕活動の効果的な実践に向けて

- 職業奉仕の意義
- 倫理基準である職業宣言、四つのテスト、道徳律、社是・社訓
具体的な製造・販売（価格決定・方法等）において、何が公平で、みんなのためになるかどうか、を含めて
- この活動に関する会員とクラブのそれぞれの役割や方法についての指針たる職業奉仕の新方針

それぞれについての理解を推し進める。

2. 活 動 計 画

(1) 卓 話

- 職業奉仕の意義

- 職業宣言、四つのテスト、道徳律、社是・社訓について
 - 職業奉仕の新方針の意義
 - 違法駐車、ゴミ問題
 - 企業におけるボランティア
- (2) 会員の事業所見学
- (3) 職業活動表彰
- (4) 違法駐車問題の解消、企業におけるゴミ問題等についての具体的実践活動の推進

ロータリー・ボランティア活動委員会

| | | |
|------|-------|---------|
| 委員長 | 杉本久仁一 | 八尾中央 |
| 副委員長 | 岡本克持郎 | (大阪城南) |
| 委員 | 松岡晃一郎 | (大阪うつば) |
| 同 | 長澤彰 | (豊中千里) |
| 同 | 小池明 | (茨木) |

1. 活動方針

当委員会は発足後6年目になる。当初の社会奉仕部門から職業奉仕部門への変更を経験した。

この間当初のボランティア・ビューローの設立からRV登録に方針を変更して120人の登録を得た。

今年度はこの名簿の活用を図り、プロジェクトの発見を地区内の各クラブの委員長にお願いし、ボランティア奉仕の実現に重点を置く。

2. 活動計画

1. RVの登録は、大幅に増加したが、更に多くの登録をお願いして、充実した登録者名簿にするために努力する。

2. RVの登録を、配偶者・家族・ローターアクトにまで広げ、包含した名簿の作成を図りたい。
3. 各クラブの職業奉仕委員や社会奉仕委員の方に、ボランティアのプロジェクトの発見に努めて頂き、ボランティア委員長に両者をジョイントして頂くようお願いする。
4. 優秀な奉仕に対して、地区大会におけるガバナー表彰をお願いし、奉仕されたボランティアとプロジェクト発見者の表彰、及びその対象に配偶者・家族・ローターアクトを含めることを検討したい。

社 会 奉 仕 部 門

担当パスト・ガバナー 廣 瀬 勘一郎 (大阪西南)

社 会 奉 仕 委 員 会

| | | |
|--------------|---------|---------|
| 委員長 | 大 橋 融 | (大阪北淀) |
| (アドバ イザー) | 新 津 敬 直 | (大阪西) |
| 副委員長 | 芝 盛 久 | (箕面中央) |
| 委 員 | 福 田 守 | (大阪阪和) |
| 同 | 村 岡 大 輔 | (大阪西) |
| 同 | 平 川 恵 一 | (大阪北) |
| 同 | 山 野 謹五郎 | (大阪梅田東) |
| 同 | 甚 田 倫 弘 | (豊中千里) |

活 動 方 針

社会奉仕の講演を適時開催。

地区及び各クラブの現状を把握し、各クラブに必要な情報・資料を提供すると共に、地区内のロータリアンの協力による協力奉仕活動を要請する。新生面として、地域社会の住民がニーズを見極め、自らの問題を解決できるように援助する。つまり自主自助の奉仕活動を推進するよう努める。

活 動 計 画

① 人間尊重

1) 高齢者への心遣い

- 老人ホームに対する対処の仕方
- 高齢者の雇用問題
- 寮母に対する慰問

- 独居老人への心配り
- ロ) 高齢者の作文、審査、表彰 (16回目)
- ハ) G S C ロータリアンの70歳以上、高齢者の交流
- ニ) 障害者の問題
- ホ) 薬物濫用防止
- ヘ) 識字率の問題
- ② 地域発展
 - イ) 里親制度の問題
 - ロ) 保健・衛生の問題
 - ハ) 社会、安全
- ③ 協同奉仕
 - イ) 海遊館への御招待
 - ロ) 身障児等とロータリアンの仲良し運動会
 - ハ) 各クラブでのインターアクト、ローターアクトの皆さんとの協同奉仕の問題

環 境 保 全 委 員 会

| | |
|------|-----------------|
| 委員長 | 遠 藤 涉 (大 阪) |
| 副委員長 | 栗 田 徹 也 (大 阪 南) |
| 委 員 | 岡 部 次 郎 (箕 面) |
| 同 | 藤 江 正 謹 (大阪阪和) |
| 同 | 南 克 昌 (大阪南西) |
| 同 | 高 室 光 博 (大阪淀川) |
| 同 | 櫻 井 勲 (大阪本町) |

委員会設置後4年間、担当松本PGおよび廣瀬PGご指導のもとに委員会活動を進めてまいりました。

第1年度は、環境保全に関する啓蒙の年度と位置付け、大気汚染問題や廃棄物問題の現

況について地区として講演会を実施するとともに、単位クラブからの要請に応じて卓話の講師派遣などを実施いたしました。

第2年度は、啓蒙・情報提供から一步前進し、問題を廃棄物問題に絞り、地区の行事として、廃棄物埋め立て処分地ならびに廃棄物焼却工場の実地見学会を実施し、環境保全に対する理解をより一層深めることとした。と同時に単位クラブの環境保全活動例等のアンケート調査を実施いたしました。

第3年度は、ロータリークラブとして環境保全問題にどう取り組むべきかを示す手引書『ロータリーと環境問題』を作成した。この手引書の作成に当たっては地区環境保全委員近藤雅臣氏（大阪大学薬学部教授・千里RC）の手を煩わした。

この『手引書』の特徴は、環境問題について、国として何をなすべきか、地区として何をなすべきか、単位クラブとして何をなすべきか、段階毎に解説されており、いままで説明されていなかった観点から取り上げた画期的なものであった。さらに、廃棄物のリサイクル問題をとらえ、平成5年4月には「千里リサイクルプラザ」の見学会を実施いたしました。

第4年度は、（1）各クラブは自主的活動を積極的に推進していただく。（2）クラブ環境保全委員長（担当者）会議を開催し意見交換を行う。（3）単位クラブの環境保全活動例等のアンケートを実施する。（4）地区行事としては、水質汚濁防止問題を取り上げ、委員長会議において専門家による「下水道」に関する講演を聴取するとともに、平成6年4月に大阪市の「中浜下水処理場」の見学会を実施いたしました。

第5年度に当たる本年度は、第4年度の（1）から（3）までを踏襲して行きたい。（4）地区行事としては、新たなテーマとして水質保全問題をとらえ、委員長（担当者）会議において専門家による「上水道」に関する講演を聴取するとともに大阪市の柴島浄水場（予定）の見学会を実施いたしたい。

要するに、環境問題は広範多岐にわたっており、そのすべてを取り上げることは困難でありますので、地区としては身近なテーマである廃棄物問題、水質汚濁防止問題、水質保全問題を取り上げてきた次第であります。

ゴミ、排水は、家庭・事業場・工場など身近な所から排出されながら、今日までその行方について一般には無関心な取り扱いを受けてきたと思います。

本年度は、飲み水という身近な問題を取り上げてみたいと考えております。

青少年奉仕部門

担当パスト・ガバナー 菅生浩三（大阪北）

青少年活動委員会

| | | | |
|------|----|----|---------|
| 委員長 | 西 | 正中 | （大阪城北） |
| 副委員長 | 板垣 | 美一 | （大阪住吉） |
| 委員 | 有賀 | 一夫 | （大阪住之江） |
| 同 | 三好 | 勝 | （大阪天満橋） |
| 同 | 藤満 | 宣夫 | （千里） |
| 同 | 山口 | 愛彦 | （四條畷） |
| 同 | 垣内 | 康弘 | （大阪港） |
| 同 | 石田 | 豊司 | （大阪北） |
| 同 | 澤井 | 正寛 | （吹田西） |

例年通りライラ（RYLA）を2回、少年少女ニコニコキャンを1回実施します。

1. ライラ RYLA（青少年指導者養成セミナー）の実施

これまで通り秋と春の2回実施します。青少年の参加が大変多くなり、またその意識も大きく変化しています。今年度はプログラム内容を検討してみたい。

① 山のライラ ホスト：千里RC

1994年9月23日～25日 大阪府立総合青少年野外活動センター（能勢町）

② 海のライラ ホスト：大阪港RC

1995年5月3日～5日 大阪府立青少年海洋センター（岬町淡輪）

2. 少年少女ニコニコキャンプの実施

小学校5・6年生を対象に、2日3泊のキャンプを通して、自然と親しみ集団生活を体験して、新しい友だちも作ってもらおうというプログラムです。ライラの参加者や、

RAC・IACの青少年に対し、リーダーとしての実地訓練をする役割もあります。

今年度は山で実施いたします。

1994年8月5日～7日 大阪府立総合青少年野外活動センター（能勢町）

ホストクラブ：大阪天満橋RC

3. 各クラブの青少年奉仕活動の情報の収集と提供

各クラブにおいて、青少年奉仕活動の具体的なプログラムを策定することは難しいので、実施しているクラブのプログラム内容を収集して、情報として提供する。

4. ライラマニュアルの改訂

最近の資料を加えて改訂版を発行いたします。

ローターアクト委員会

委員長 北村英一（吹田）

副委員長 伊藤七郎（大阪東）

委員 青木達也（大阪西南）

同 飯原弘章（大阪住吉）

同 小西眞明（寝屋川）

同 服部修（枚方）

同 立野純三（大阪）

基本方針

第2660地区ローターアクトは現在22クラブ会員数約450名である。会員数が10名以下のクラブが数クラブあるが、大部分のクラブは10～30名でクラブ活動も活潑に行われている。いろいろ困難もあり又批判もあるが、アジア第1、第3ゾーンの33地区内では数的にはトップに続く位置にあり、その活動内容も充実し他地区と比べ何ら遜色はない。今後のRACのあり方としてはロータリーの援助に頼りきるのではなく、アクト自身が自覚と責任を持って、自らの力で未来を切り開く意欲を持つ「自立するアクト」を指導の基本とし、

ロータリーとの共同のパートナーとしての活動する奉仕団体とするR Iの目標に一步でも近づけていきたい。

活 動 計 画

- (1) クラブ数が増加したので、従来の2ゾーンを今年度から3ゾーンに分割し直した。ゾーン毎にきめ細かいクラブ情報の相互交換によって、各クラブの運営を改善し活動内容を高め、地区として確かな基礎を固めていきたい。
- (2) 今年度の地区ターゲットは「何故?からの挑戦」とし、アクト活動を従来の慣例にとられず、すべて新しい観点から見直して画期的発展を目指したい。
- (3) リーダーシップフォーラム、地区連絡協議会、理事役員会等の討議内容を充実し、ロータリーの心のあり方を各自で体得し、奉仕の活動の充実をはかる。
- (4) 地区内各クラブの活動状況や地区行事等の情報を地区全会員が理解する事がクラブ活性化をはかるにかかせない事であり、今年度は地区広報紙の内容を大巾に充実し、レイアウト等も改善する。

1994 ~ '95 年度ローターアクト役員

| | | | |
|-------|---------------|--------------|--------------|
| 地区代表 | 佐藤 晴一 (大阪東) | 大阪北 ゾーン代理 | 中村 厚由樹 (池田) |
| 地区幹事 | 小林 奈織 (大阪天満橋) | 大阪中 ゾーン代理 | 藤井 国博 (大阪梅田) |
| 地区副幹事 | 西村 尚子 (大阪淀川) | 大阪南 ゾーン代理 | 松川 圭一 (大阪南) |
| 地区会計 | 林 志織 (大阪東) | | |

地区RAC一覧表 (ABC順)

| | |
|--------|---|
| 大阪北ゾーン | 枚方RAC、茨木RAC、池田RAC、守口RAC、寝屋川RAC、 (8クラブ) 大阪空港RAC、吹田RAC、高槻RAC |
| 大阪中ゾーン | 大阪RAC、大阪東RAC、大阪北RAC、大阪西RAC、 (7クラブ) 大阪天満橋RAC、大阪梅田RAC、大阪淀川RAC |
| 大阪南ゾーン | 東大阪RAC、東大阪東RAC、大阪平野RAC、大阪南RAC、 (7クラブ) 大阪西南RAC、大阪住吉RAC、八尾東RAC |

1994～95年度 国際ロータリー第2660地区ローターアクト年間活動計画

| 年度 | 開催日 | | | 行事 | ホスト |
|------|-----|-------|-----------|-------------------------|------------|
| | 月 | 日 | 曜日 | | |
| 1994 | 7 | 24 | 日 | 地区リーダーシップフォーラム | |
| | 7 | 26 | 火 | 前期提唱RCローターアクト正副委員長会議 | RC地区委員会 |
| | 8 | 5～7 | 金～日 | 少年少女ニコニコキャンプリージャー奉仕 | 地区青少年活動委員会 |
| | 8 | 21 | 日 | 第1回海外研修オリエンテーション | 地区RAC役員 |
| | 8 | 28 | 日 | 地区第1回献血 | |
| | 8 | 28 | 日 | 第1回地区連絡協議会 | |
| | 9 | 18 | 日 | 第2回海外研修オリエンテーション | 地区RAC役員 |
| | 9 | 23～25 | 金～日 | RYLセミナー参加(能勢町) | 地区青少年活動委員会 |
| | 10 | 16 | 日 | 第2640地区との交流会 | 第2640地区 |
| | 10 | 30 | 日 | 第3回海外研修オリエンテーション | 地区RAC役員 |
| | 11 | | | 地区海外研修 | |
| | 12 | 11 | 日 | RC・RACジョイントパーティ | |
| 1995 | 1 | 26 | 木 | 後期提唱RCローターアクト正副委員長会議 | RC地区委員会 |
| | 1 | | | 地区海外研修反省会 | 地区RAC役員 |
| | 2 | 5 | 日 | 地区第2回献血 | |
| | 2 | 5 | 日 | 第2回地区連絡協議会 | |
| | 3 | 7～13 | 火～月 | 世界ローターアクト週間 | |
| | 3 | 18～19 | 土～日 | アジア第1、第3ゾーンRAC研修会(会津若松) | 第2530地区 |
| | 4 | | | 身障児とロータリーアンとの仲よし運動会 | 地区社会奉仕委員会 |
| | 5 | 3～5 | 祝 | RYLAセミナー参加(淡輪) | 地区青少年活動委員会 |
| | 5 | 12～13 | 金～土 | 地区ロータリー年次大会参加 | 大阪阪南RC |
| | 5 | 21 | 日 | 地区ローターアクト年次大会 | 大阪東RAC |
| 6 | 11 | 日 | 地区新旧理事役員会 | | |

その他行事 各ゾーン会長会(毎月1回程度)

各ゾーン交流会(年間各ゾーン1回程度)

インターアクト委員会

| | | |
|------|------|--------|
| 委員長 | 中島孝夫 | (八尾) |
| 副委員長 | 朝倉良 | (大阪城南) |
| 委員 | 田中祥介 | (大東) |
| 同 | 前山克己 | (大阪阪南) |
| 同 | 今井悠紀 | (大阪) |
| 同 | 佐々進一 | (大阪南西) |
| 同 | 下城圓 | (八尾) |

活動方針

- (1) 当委員会は、地区インターアクト提唱9ロータリークラブの理解と協力のもとに、9校の顧問、インターアクターと協調して、国際理解と地域社会への奉仕活動を各校の実情に添って展開するが、同時にインターアクトの定款に準じた活動も学校側に実施を要請していく。
- (2) 最近の中高等学校の経営は全国的な生徒数減少傾向の中で所謂リストラを余儀なくされている現状である。インターアクト活動はその重要性を理解されながらも、学校によっては存在すら検討されている模様である。ロータリーとしても従来通りの対応でいいのかを論議する必要に迫られている。一方現代の中高等学校の生徒たちにボランティアの意義を伝える使命をロータリーは負っている。インターアクト委員会だけでなく社会奉仕の分野でも取り上げて頂けるよう努力したい。
- (3) 当地区ではここ暫くインターアクト新設がなかったが、1クラブから設立希望がある。委員会としては全面的に早期設立に向けて協力する体制を整えつつある。
- (4) インターアクトの仕事3分割制は2年目に入り定着してきた。本年度は年次大会ならびに新入生歓迎会を大阪城南RC、明浄学園中高等学校に、海外研修旅行を大東RC、大阪桐蔭高等学校にまた、情報誌「スクラム」は大阪阪南RC、四天王寺中高等学校が担当する。
- (5) 本年度の海外研修旅行は台湾台北が予定されている。担当の大東RCが台北の友好クラブと連絡を取り、準備を進めている。尚、8月19日～23日、4泊5日の計画である。ロータリアンの家庭でホームステイ、また現地インターアクターとも交流する。

国際奉仕部門

担当パスト・ガバナー 古田敬三（大阪）

世界社会奉仕委員会

| | |
|------|------------|
| 委員長 | 藤井宏一（大阪西北） |
| 副委員長 | 吉川謹司（東大阪東） |
| 委員 | 堀内 顕（八尾東） |
| 同 | 横山守雄（大阪中央） |
| 同 | 坂本 旭（大阪東淀） |
| 同 | 一瀬昌夫（大阪堂島） |
| 同 | 瀧田浩彦（東大阪中） |
| 同 | 熊澤忠躬（守口） |

I 活動方針

世界社会奉仕は国際奉仕の一分野で、国際レベルで地域社会開発と親善を推進する。ロータリアンは世界社会奉仕を通じて、物質的、技術的、専門的援助を提供することによって生活を改善し、人類のニーズに応え、国際理解を推進する為に、プロジェクトを実施する……云々と定義されています。

現在 R I 理事会は飢餓救済と云う目標を最優先しなければならないと決定しています。当地区世界社会奉仕委員会としてもこの主旨にのっとり、恵まれない人々に対し、一人でも多くの人が生活の自律が出来る様な援助活動を進め度く計画実行する予定です。

II 活動計画

- ① 昨年に引き続いて各クラブでの世界社会奉仕の担当者を決めて貰う。
- ② 各クラブで一人でも多くのロータリアンに、世界社会奉仕に対する理解を深めてもらう。

- ③ 地区世界社会奉仕は地区合同のプロジェクトに参加するクラブから一人当たり 5,000 円の拠金をうけて実施する。

青少年交換委員会

| | |
|------|------------|
| 委員長 | 毛利哲三(大阪西南) |
| 副委員長 | 八木頼夫(大阪) |
| 同 | 中一皓(枚方くずは) |
| 委員 | 三宅一嘉(大阪東南) |
| 同 | 近藤眞道(高槻西) |
| 同 | 森禎良(大阪北) |
| 同 | 植田豊實(箕面中央) |
| 同 | 山口賢一(大阪南) |
| 同 | 津田憲治(大阪本町) |
| 同 | 佐藤俊一(大阪鶴見) |

1. 活動方針

青少年交換委員会の実務は特に数年度にまたがり、継続的な活動が要求される。

委員の構成メンバーが大幅に変更される今年度は、特に過年度の案件の実施について前委員長と密接に連携をとりながら委員会の運営をはかりたい。

今年度は現在のところ9ないし10名の長期留学生と8名の短期留学生の交換を予定しているが、未だ交換の経験のないクラブに活動の拡大と協力を呼びかけたい。

また、昨年度からROTEX(交換学生のOB、OG会を正式に発足させ、その組織は固まってきた。来日および派遣交換学生に各自の実体験を指導し、さらにROTEXと青少年交換委員会を有機的に機能させてロータリーと永続的な関係を持たせるべく努力したい。

2. 主な年間活動

- 1) 交換学生の派遣および受け入れに関する事務折衝およびPR
- 2) 派遣および受け入れ交換学生に対するオリエンテーションの実施
- 3) ホストクラブ、ホストファミリーに対するオリエンテーションの実施
- 4) 歓送迎会、クリスマスならびに新年会の実施
- 5) 各種アンケート調査の実施
- 6) 来日学生の通学高等学校の選択および斡旋
- 7) 学生受け入れ高校、ホストクラブ、ホストファミリーへの感謝状贈呈および帰国学生への留学修了証書の授与
- 8) 一泊研修旅行、禅寺一日研修の計画実施、地区大会、RYLA等の地区行事への参加
加勸奨
- 9) 受け入れ、派遣両学生の感想文集の発行

なお、新年度の派遣内定学生の名簿およびスケジュールの詳細は以下の通りである。
来日学生の名簿は手続き未了のため、後日発表する。

青少年交換委員会年間行事要約

| 月 | 項 目 | 対 象 |
|----|--|---|
| 7 | 1. 第1回地区青少年交換委員会全国会議 出席 2. 地区青少年交換委員会 開催 年度計画 予算等について 3. 次年度8月長期交換学生の予備折衝 4. 次年度8月長期派遣学生募集要項 発送 5. 8月長期来日予定学生(1)受入オリエンテーション ※来日学生オリエンテーション・歓迎会案内状 配布 (2)受入高校 お礼状・歓迎会案内状 発送 (3)第1回補助金 振込 6. 1月長期来日学生 第3回補助金 振込 7. ガバナー月誌 投稿 | 委員長又は代理者(東京:ガバナー会事務所) カバナー、ガバナーノミニー、担当バストガバナー 地区国際奉仕担当幹事、地区交換委員 委員長、担当委員、海外地区担当者 地区内全クラブ(ガバナー事務所担当) クラブ担当者、カウンセラー、ホストファミリー 受入高校担当者、地区関係者、地区交換委員 受入高校(7月上旬) ホストクラブ 40万円 ホストクラブ 20万円 委員長、担当委員 |
| 8 | 1. 地区内全クラブ国際奉仕、青少年交換委員長会議 募集要項等の説明会 2. 帰国長期派遣学生歓迎会 連絡・感想文 依頼 感想文集記載の関係上司 挨拶文 依頼 3. 8月長期派遣学生 出発 4. 8月長期来日学生(1)来日予定 連絡・出迎 (2)オリエンテーション・歓迎会 5. 次年度8月長期交換学生 交渉開始 | 各クラブ担当者、ガバナー、ガバナーノミニー 担当バストガバナー、地区交換委員 対象学生(外国文、日本語) ガバナー、担当バストガバナー、委員長 対象学生、父兄、スポンサークラブ ホストクラブ、ホストファミリー 来日学生、Rex、受入高校、ホストクラブ ホストファミリー、地区関係者、地区交換委員 委員長、担当委員、海外地区担当者 |
| 9 | 1. 大阪鶴見市民祭参加 2. 山のライラ 参加 3. 次年度長期交換学生 応募状況 把握 4. 1月長期来日予定学生 関係書類 発送 | 来日学生(大阪鶴見ロータリー担当) 来日学生、Rex(地区青少年活動委員会担当) 委員長、担当委員 ホストクラブ、海外派遣地区担当者 |
| 10 | 1. 3月長期派遣予定学生 応募締切 関係書類発送 2. 1月長期来日学生(1)帰国準備 連絡 (2)受入感謝状・ディプロマ 作成 (3)第4回補助金 振込 3. 8月長期来日学生 アンケート 発送 | スポンサークラブ、海外受入地区担当者 来日学生、ホストクラブ 担当委員 ホストクラブ 20万円 受入高校、第一ホストファミリー |
| 11 | 1. 身障者白浜旅行 参加 2. 8月長期来日学生 第2回補助金 振込 3. 3月長期派遣予定学生 キャンペーンフォーム最終処理 4. 1月長期来日予定学生 受入 確認 5. 1月長期来日学生、アンケート 発送 | 来日学生、Rex(地区社会奉仕委員会担当) ホストクラブ 20万円 ホストクラブ、海外派遣地区担当者、委員長 ホストクラブ担当者 (1)カウンセラー名、(2)第一ホストファミリー、 (3)補助金振込先 等 受入全ホストファミリー |

| 月 | 項 目 | 対 象 |
|----|--|---|
| 12 | 1. 第2回地区青少年交換委員長全国会議 出席 2. 地区青少年交換委員会 開催 次年度来日学生について 3. 8月長期来日学生 受入関係者の集い 4. 1月長期来日予定学生(1)受入オリエンテーション * (2、3、4は同日に実施) ※来日学生オリエンテーション・新年会案内状 配布 (2)受入高校 お礼状・新年会案内状 発送 (3)第1回補助金 振込 5. 次年度青少年交換委員選出 | 委員長又は代理者(東京:ガバナー会事務所) ガバナー、ガバナーノミニー、担当バストガバナー 地区国際奉仕担当幹事、地区交換委員 カウンセラー、ホストファミリー、地区交換委員 クラブ担当者、カウンセラー、ホストファミリー 受入高校担当者、地区関係者、地区交換委員 受入高校(12月上旬) ホストクラブ 40万円 ガバナーノミニーより委員長に依頼 |
| 1 | 1. 8月長期派遣予定学生 応募締切 関係書類発送 2. 1月長期来日学生 (1)来日予定 連絡・出迎 (2)オリエンテーション・歓迎会 3. 3月長期派遣予定学生 オリエンテーション 4. 新年会 (2、3、4は同日に実施) 5. 3月長期派遣学生 アンケート 発送 6. 青少年交換学生感想文集 発刊 7. ガバナー月誌 投稿 | スポンサークラブ、海外受入地区担当者 ホストクラブ、ホストファミリー 派遣学生、父兄、スポンサークラブ担当者 来日学生、Rex、受入高校、ホストクラブ ホストファミリー、地区関係者、地区交換委員 担当委員、海外派遣地区担当者 担当委員 委員長、担当委員 |
| 2 | 1. 地区年次大会 部門別協議会 打合せ 2. 世界理解月間 卓話依頼 3. 8月長期来日学生 第3回補助金 振込 4. 海外地区青少年交換担当者 来訪・接待 | 委員長、関係委員 委員長、担当委員 ホストクラブ 20万円 委員長、関係委員 |
| 3 | 1. 国際大会前 青少年交換会議参加 要請 2. 3月帰国長期派遣学生 感想文 依頼 3. 3月長期派遣学生 出発 4. 1月長期来日学生 アンケート 発送 5. 広島 研修旅行 | 委員長、関係委員 対象学生(外国文、日本語) 対象学生、父兄、スポンサークラブ 受入高校、第一ホストファミリー 来日学生、担当委員、その他 希望者 |
| 4 | 1. 次年度3月長期派遣学生の予備折衝 2. 次年度3月長期派遣学生募集要項 発送 3. 地区年次大会 参加 4. 1月長期来日学生 第2回補助金 振込 5. 8月長期派遣予定学生ギランティーフォーム最終処理 8月長期来日予定学生 関係書類 発送 6. 地区青少年交換委員会 開催 事業報告内容等について 7. 次年度3月長期交換学生 交渉開始 | 委員長、担当委員 地区内全クラブ(ガバナー事務所担当) 来日学生、Rex ホストクラブ 20万円 ホストクラブ、海外派遣地区担当者、委員長 ホストクラブ、海外派遣地区担当者 ガバナー、ガバナーノミニー、担当バストガバナー 地区国際奉仕担当幹事、地区交換委員 委員長、担当委員、海外地区担当者 |

| 月 | 項 目 | 対 象 |
|---|---|---|
| 5 | 1. 長期来日学生 (1)海のライラ 参加 (2)座禅会 参加 2. 8月長期来日学生 (1)帰国準備 連絡 (2)受入感謝状・ディプロマ 作成 (3)第4回補助金 振込 3. 8月長期来日予定学生受入 確認 4. 8月長期派遣学生 アンケート 発送 5. 8月長期来日学生 アンケート 発送 6. ガバナー月誌 投稿 | 来日学生、Rex (地区青少年活動委員会担当) 来日学生、Rex (高槻西ロータリークラブ担当) 来日学生、ホストクラブ 担当委員 ホストクラブ 20万円 ホストクラブ担当者 (1)カウンセラー名、(2)第一ホストファミリー、 (3)補助金振込先 等 担当委員、海外派遣地区担当者 受入全ホストファミリー 委員長、担当委員 |
| 6 | 1. 地区協議会 出席 2. 8月長期派遣予定学生 オリエンテーション 3. 長期来日学生・3月帰国学生 歓送迎会 * (2、3は同日に実施) | 委員長、担当委員 各クラブ国際奉仕委員長・青少年交換委員長 派遣学生、父兄、スポンサークラブ担当者 来日学生、Rex、受入高校、ホストクラブ ホストファミリー、地区関係者、地区交換委員 |

1) 長期派遣学生 (1994～1995)

| No. | 氏 名 | 性別 | 年齢 | ホ ス ト R. C | 地 区 | 国 名 |
|-----|-----------|------|---------------------|-----------------------|------|--------------|
| | スポンサー R C | 〒 | 住 | 所 | 電 | 話 |
| 1 | 片 山 佑 一 | 男 | 17 | SAO JOSE DO RIO PRETO | 4480 | ブラジル |
| | 高 槻 西 | 〒569 | 高槻市八幡町2-15 | | ☎ | 0726-75-2144 |
| 2 | 穂 山 玲 | 女 | | EAST VANCOUVER, HA | 5100 | U S A |
| | 大 阪 鶴 見 | 〒536 | 大阪市城東区中央1-12-23-201 | | ☎ | 06-934-1125 |
| 3 | 岸 貴美子 | 女 | 16 | TX | 5910 | U S A |
| | 大 阪 本 町 | 〒551 | 大阪市泉尾1-17-30-203 | | ☎ | 06-554-7749 |
| 4 | 運 合 明 子 | 女 | 15 | IL WI | 6490 | U S A |
| | 大 阪 う つ ぼ | 〒596 | 岸和田市池尻町646 | | ☎ | 0724-44-6025 |
| 5 | 三 宅 和 宏 | 男 | 15 | ID | 5400 | U S A |
| | 大 阪 東 南 | 〒631 | 奈良市鳥見町1-8-22 | | ☎ | 0742-44-8534 |
| 6 | 古 谷 古 康 | 男 | 18 | | 7040 | CANADA |
| | 吹 田 西 | 〒564 | 吹田市江坂町2-15-14 | | ☎ | 06-385-3054 |
| 7 | 藤 井 加 奈 子 | 女 | 16 | | 7080 | CANADA |
| | 箕 面 | 〒562 | 箕面市桜井2-2-5 | | ☎ | 0727-23-7881 |
| 8 | 長谷川 容子 | 女 | 19 | | | ド イ ツ |
| | 高 槻 西 | 〒569 | 高槻市寺谷町34-2 | | ☎ | 0726-87-9233 |
| 9 | 渡 辺 琴 | 女 | 17 | | 9910 | N. Z. |
| | 枚 方 く ず は | 〒658 | 神戸市東灘区御影中町7-4-21 | | ☎ | 078-811-9476 |

(注) No.1は、1994年2月～1995年1月
 No.2は、1994年4月～1995年3月

No.3～9は、1994年8月～1995年7月

CANDIDATES FOR SHORT TERM SUMMER EXCHANGE WITH ITALY, 1994

| NAME | AGE | SEX | FREE FROM | TILL | PREFER TO HOST | SPONSOR R.C. |
|-----------------|-----|-----|-----------|--------|----------------|-----------------------|
| NOBURO KANOU | 17 | F | 7/23 | - 8/28 | F | HIGASHI OSAKA HIGASHI |
| TAISUKE OUE | 21 | M | 7/20 | - 9/5 | M/F | OSAKA UTSUBO |
| YUKIKO TANINAKA | 17 | F | 7/13 | - 9/4 | M/F | OSAKA KASHIWARA |
| SAKURA INOUE | 21 | F | 8/1 | - 9/30 | F | OSAKA NAMBA |
| MANI OGURA | 22 | F | 8/1 | - 9/30 | F | OSAKA NAMBA |
| TOMOYO NOMURA | 20 | F | 8/1 | - 9/15 | F | MINOO CHUO |
| KANAKO TAMURA | 16 | F | 7/13 | - 9/4 | M/F | HIGASHI OSAKA HIGASHI |
| TOMOKO SASAKI | 20 | F | 7/10 | - 9/10 | M/F | OSAKA SOUTH |

国際交流・平和委員会

| | |
|------|--------------|
| 委員長 | 小山雄三(大阪東) |
| 副委員長 | 笹井敏之(大阪阪和) |
| 委員 | 野村浩司(大阪そねざき) |
| 同 | 徳永孝哉(大阪船場) |
| 同 | 吉川邦英(大阪) |
| 同 | 本田良光(大阪東) |

1) 国際大会について

1994年は台北で開催されます。6月12日～15日の4日間です。

台北の場合は近いので2660地区で現在迄774名(ロータリアン588名、配偶者外186名)の参加が予定されています。

現在迄の所、中華航空の墜落による取消は無いようです。

1995年はフランスのニースです。

6月中に大会に関するアンケートを出しますので、各クラブ会長、幹事、国際奉仕委員長、国際交流平和委員長の自署の上、必ず御返答下さい。

関西新空港も開港され、ヨーロッパへの直行便も有りますので、出来丈多数参加して下さい。「Be a Friend」の言葉通り友好が深められると思います。

2) 姉妹・友好クラブについて

6月中に国際大会のアンケートと同時に姉妹・友好クラブのアンケートを出しますので、御協力下さい。

姉妹・友好クラブは「2660地区」では78クラブ有りますが、未締結は18クラブです。出来丈、未締結のクラブは、新しく締結して下さい。

特に現在迄、韓国・台湾・東南アジアの諸国が多いですが、来年はフランスのニースで世界大会が有りますので、ヨーロッパ各国との締結を、特にお願いします。

3) 友情交換について

友情交換の制度があります。

友情交換には2種類有ります。

- ① クラブ対クラブの訪問プログラム。
- ② 地区対地区のチームプログラムが有ります。

「Be a Friend」の言葉を体して、よくPRをしたいと計画しています。

4) 世界親睦活動と国際職業連絡グループが一つになって

Rotary Recreational Vacational Fellowship R、R、V、Fとなります。

世界親睦活動には37のグループが有ります。色々ありますので、世界親睦活動の小冊子の中に詳しく出ている事をPRして行きます。

○国際職業連絡グループ

国際レベルのロータリーの会合で、職業連絡会議を通じて、親睦と奉仕活動を推進し、個人対個人の職業訪問や交換をPRする。

5) 平和委員会について

平和意識をもって小さい平和から始めて、次第に輪を大きくして、「Be a Friend」の気持で友達になれば、自然と平和の輪が広がり、各人が意識をもつことが大切である。

「妻との平和」「家族の平和」「会社の平和」「町の平和」「社会の平和」と一つ一つが意識される事で輪を拡げて大きな平和になる事を、PRして行く。

◎ 当委員会はWCSや青少年交換の様に、その為めに地区がお金を支援したり、協力したりする委員会では、ありません。

- 国際大会
- 姉妹・友好クラブ
- 友情交換
- 世界親睦活動・国際職業連絡グループ
- 平和委員会

等何れもPRが主であって、その中に「Be a Friend」の気持で国際交流に友情の輪、平和の輪を拡げて行くのが主旨です。

ロータリー財団部門

担当パスト・ガバナー 山中文和 (大阪南)

ロータリー財団委員会

委員長 山中文和 (大阪南)

委員 田中穰二 (大阪西南)

同 中田康仁 (大阪南)

同 大川進一郎 (大東)

同 大内昭男 (大阪鶴見)

同 大井勝利 (東大阪西)

- 地区財団委員会としては今年度は下記の6名の委員をもって構成します。
- 特に申し上げる事は今まで当地区は国際親善奨学生への支援、育成に最重点をおいていましたが、新年度からかねて懸案であった情報委員会を新設し、同額補助金・シェアシステムによるDDFの使途の研究、そしてその情報伝達、並びにベネファクターによる基金募集の徹底方法の研究・地区内各クラブに対し財団のその他の新しい情報の周知の手配等を中心にして御活躍頂き、財団活動の一層の活性化をはかる事になった。
- 別紙の如く一年間で51回にも及ぶ財団関係各地区委員会の開催により、例年の如く一層力強い活動を期しています。

地区委員会51回中必要分会議費 ￥100,000

- 財団増進委員会としては今年度の不景気の状況や、75周年明けの事もあって、このままではあまり増額も望めない為に本年度は、The rotary foundation monthly contribution report. (各クラブ寄付額一覧表) を日本語に訳して、配布し地区内全クラブ員の意欲の増進をはかる。

尚、本年度目標は1人当たり\$135とします。

- 以下各財団関係委員会の報告の通りであります。

1994～95年度地区ロータリー財団主たる行事、委員会

| (1994年) 日 時 | | | 行 事 | 会 場 |
|-------------|---|----------------------------|---|---------------------------|
| 4 / 1 | 金 | 15:30～16:30 | 第一回財団委員会・地区協議会打合せ (地区財団セミナー・部門別協議会) | ロイヤルホテル 役員応接室 |
| 4 / 12 | 火 | 14:00～16:00 | 第二回財団委員会・地区協議会打合せ | ベイトワーホテル |
| 5 / 7 | 土 | 10:00～16:30 | 現・次年度合同地区委員長会議 | 辯天宗信者会館 |
| 5 / 9 | 月 | 15:00～17:00 | 第一回財団情報・財団増進委員会 (現・次年度委員会) | ガバナーノミニエ事務所 |
| 5 / 10 | 火 | 16:00～18:00 | 第三回財団委員会・地区協議会打合せ | ガバナーノミニエ事務所 |
| 5 / 28 | 土 | 9:00～ | 地区協議会(財団セミナー・財団部門協議会) | 都ホテル大阪 |
| 6 / 4 | 土 | 13:00～14:30 14:30～18:30 | 国際親善奨学金委員会 第三回国際親善奨学生オリエンテーション | YMCA " |
| 6 / 11 | 土 | 9:00～17:00 | 1995-96年度国際親善奨学生 第一次選考会 | YMCA |
| 6 / 25 | 土 | 9:00～17:00 18:00～ | 1995-96年度国際親善奨学生 第二次選考会 G S E 反省会 | YMCA ロイヤルH・ジャンボール |
| 7 / 6 | 水 | 15:00～17:00 | 第一回研究グループ交換委員会(受入れ、派遣) | ガバナー事務所 |
| 7 / 9 | 土 | 10:00～16:00 16:00～18:00 | 合同地区 委員会 合同地区 懇親会 | 都ホテル大阪 " |
| 8 / 3 | 水 | 17:00～18:45 | 第一回学友委員会 | 国際交流センター |
| 8 / 5 | 金 | 15:00～17:00 | 第二回研究グループ交換委員会(受入れ、派遣) 研究グループ交換受入ブロック編集会議 | ガバナー事務所 " |
| 8 / 8 | 月 | 15:00～17:00 | 第四回地区ロータリー財団委員会 | ガバナー事務所 |
| 8 / 20 | 土 | | P S C総会並びに懇親会 1992-93年度国際親善奨学生帰国歓迎及び報告会 研究グループ交換受入実行委員長会議 | YMCA " " |
| 9 / 17 | 土 | 11:00～13:00 13:30～16:30 | 第二回財団情報・財団増進委員会 第一回国際親善奨学金委員会 第一回クラブロータリー財団委員長会議 | YMCA " (ホスト) " (増進) |
| 10 / 5 | 水 | 17:00～18:45 | 第二回学友委員会 | 国際交流センター |
| 10 / 14 | 金 | 12:00～14:00 14:30～16:00 | 第五回地区ロータリー財団委員会 第三回財団情報・財団増進委員会 | ガバナー事務所 " |

| (1994年) 日 時 | | | 行 事 | 会 場 |
|-------------|--------|----------------------------|--|----------------------|
| 11/1 2 | 火 水 | 13:00~16:00 | G S E派遣オリエンテーション2日間 | ホテル交渉中 |
| 11/12 | 土 | 13:00~16:00 | 1994-95年度国際親善奨学生 第一回オリエンテーション | YMCA |
| 12/7 | 水 | 17:00~18:45 | 第三回学友委員会 | 国際交流センター |
| 12/10 | 土 | 11:00~13:00 13:30~16:30 | 第六回地区ロータリー財団委員会 第二回クラブロータリー財団委員長会議 | YMCA (ホスト) " (増進) |
| 1995年 | | | | |
| 2/8 | 水 | 17:00~18:45 | 第二回学友委員会 | 国際交流センター |
| 3/8 | 水 | 17:00~18:00 18:00~19:30 | 1995-96年度第一回地区ロータリー財団委員会 地区ロータリー財団委員会 懇親会 | ガバナー事務所 " |
| 3/18 | | 13:00~16:00 | 1994-95年度国際親善奨学生 第二回オリエンテーション | YMCA |
| 4/初 | | | 次期地区委員長会議 (会長エレクト研究セミナー) | |
| 4/5 | 水 | 17:00~18:45 | 第四回学友委員会 | 国際交流センター |
| 4/中 | | | 1995-96年度第二回地区ロータリー財団委員会 (財団セミナー並びに地区協議会打合せ) | ガバナー事務所 |
| 4/18 | | 16:00~17:30 17:30~19:00 | 研究グループ交換委員会 研究グループ交換委員会 歓送会 | |
| 5/下 | | | 1994-95年度第七回地区ロータリー財団委員会 | ガバナー事務所 |
| 6/7 | 水 | 17:00~18:45 | 第六回学友委員会 | 国際交流センター |
| 6/10 | 土 | 16:00~17:30 17:30~19:00 | 研究グループ交換受入 委員会 研究グループ交換受入団員 送別会 研究グループ交換派遣団員 帰国歓迎及び報告会 | ホテル交渉中 |
| 5/20 | 土 | 9:00~17:00 | 1996-97年度国際親善奨学生 第一次選考委員会 | YMCA |
| 6/3 | 土 | 9:00~17:00 | 1996-97年度国際親善奨学生 第二次選考委員会 | YMCA |
| 6/17 | 土 | 11:30~13:30 13:30~16:30 | 第一回奨学金委員会 第三回奨学生オリエンテーション | YMCA " |

財団国際親善奨学金委員会

| | | |
|------|-------|---------|
| 委員長 | 大川進一郎 | (大東) |
| 副委員長 | 阿部成之助 | (大阪鶴見) |
| 委員 | 林喜英 | (箕面) |
| 同 | 櫻井良文 | (大阪) |
| 同 | 田辺和宏 | (寝屋川) |
| 同 | 三木茂 | (大阪阿倍野) |
| 同 | 奥嘉隆 | (交野) |
| 同 | 寺田秀興 | (東大阪東) |

シェアシステム60%の中にできるだけ人道プログラムを取り入れるようにとのR Iからの指示ではありますが、人道プログラムは極力40%の中から出して頂き、当委員会としては、将来日本を背負って立つ優秀な若人に一人でも多く、国際感覚を身につけてもらい、視野の広い指導者になってもらいたいと念願する次第です。当地区から毎年派遣している20名前後の奨学生は、米山奨学生の当地区が受け入れている学生数60名前後から見れば3分の1に過ぎません。昔、賀川豊彦先生は人道的立場から神戸の貧民窟に入り、彼等と寝食を共にしながら私財の全てを投げうって救おうとされました。が、売られた娘の身受けをしても、娘の父親はその日のうちに又売っては飲み代に消えてしまいます。結局先生は自助努力をしない乞食に物を与えるようなものだと思われ、その後前途有望な青年の指導育成に力を入れられた事は衆知の通りです。人道的プログラムはロータリー財団の40%の他W C Sからでも供出できます。従って国の将来を託す若人に一人でも多く、留学のチャンスを与えたいと思います。幸いロータリー財団の一般寄付が予想以上に集まった場合は、来年度ブラジルと台湾の2 R Cに奨学生2名分の権利をお譲りする事が決まった様に、国際的支援をしたり、開発途上国の大学で教鞭を執る優秀な大学教員のために補助プログラムに協力する事にはやぶさかではありません。

活 動 計 画

- ① 1995～96年奨学金受領候補者の申請書を7月末日までにロータリー財団に送付の予定。
- ② 財団本部からの合格内示があり次第、正候補者とその顧問ロータリアン合同の第1回オリエンテーションを開催し、殆留学校が決まった頃に第2回を、そして6月には壮行会を兼ねて第3回を催す。
- ③ 各オリエンテーションには講師を招いて、文化・宗教・料理マナー等の教養セミナーも行う。
- ④ 12月中旬に各クラブ財団委員会会議を開催し、1994～97年度奨学金申請要領を説明する。
- ⑤ 1996～97年度奨学金申請のクラブ受付締切は1995年4月22日。ガバナー事務所受付締切は5月6日とし、選考試験日は5月20日(土)と6月3日(土)の2回に亘り実施する予定。

予 算 案

| 月/日 | 摘 要 | 金 額 (円) |
|---------------|--|-----------|
| 7/未 | 奨学生申請書作成費 (バイト料含む) 及び送料 | 40,000 |
| 10/中 | クラブロータリー財団委員長会議 (国際親善奨学金委員会担当) | 30,000 |
| 11/下 | 奨学生第1回オリエンテーション (1PM~4PM) | 80,000 |
| | 国際親善奨学金委員会 (11AM~1PM) | 30,000 |
| 12/中 | ロータリー財団委員長会議 | 60,000 |
| 3/中 | 奨学生第2回オリエンテーション (講師謝礼含む) | 120,000 |
| 4/中 | 奨学生ポスター制作及び配布 | 170,000 |
| 5/14 28 | 選考試験 (第1次、第2次会場費、外国試験官謝礼、食費、翻訳料、郵便代 他) | 950,000 |
| 6/未 | 奨学生第3回オリエンテーション (料理マナー講習付) | 220,000 |
| 委 員 会 予 算 総 計 | | 1,700,000 |

年 間 予 定 表

| 年 | 月 日 (曜) | 内 容 |
|-----|------------|-------------------------------|
| '94 | 6. 4 (土) | 国際親善奨学金委員会 第3回奨学生オリエンテーション |
| | 6. 11 (土) | 第1次選考会 |
| | 6. 18 (土) | 第2次選考会 |
| | 9. 17 (土) | 国際親善奨学金委員会 第1回クラブ委員長会議 |
| | 11. 12 (土) | 第1回奨学生オリエンテーション |
| | 12. 10 (土) | 第2回クラブ委員長会議 |
| '95 | 3. 18 (土) | 第2回奨学生オリエンテーション |
| | 5. 20 (土) | 第1次選考会 |
| | 6. 3 (土) | 第2次選考会 |
| | 6. 17 (土) | 国際親善奨学金委員会 第3回奨学生オリエンテーション |

財 団 増 進 委 員 会

| | |
|------|----------------|
| 委員長 | 中 田 康 仁 (大阪南) |
| 副委員長 | 山 口 幸 雄 (八 尾) |
| 委 員 | 谷 口 勉 (大阪難波) |
| 同 | 矢 部 文 治 (大 阪) |
| 同 | 西 村 五 郎 (大阪城南) |

本年度当地区の財団一般寄付目標額は、1人当たり135ドルとする。この目標を達成するため以下の活動を展開する。

1. マルチプル・ポール・ハリス・フェローを奨励する。
2. 各クラブに最低1名以上のベネファクターを推奨する。
3. 中断しているポール・ハリス・準フェローに対し、寄付の継続を奨励する。
4. 本年度から新設された財団情報委員会との連携を密にし、各クラブに対する情報提供を活発にする。
5. 寄付額達成表等を適時クラブに配布し、財団に対する関心を高めるために資する。
6. 「ロータリー財団月間」、IGFその他地区レベルの会合を情報提供の機会として積極的に活用する。

財 団 学 友 委 員 会

| | |
|------|------------------|
| 委員長 | 大 井 勝 利 (東大阪西) |
| 副委員長 | 吉 川 忠 章 (東大阪東) |
| 委 員 | 西 村 一 夫 (池 田) |
| 同 | 岸 本 卯 一 郎 (箕面中央) |
| 同 | 吉 川 稔 (寝屋川) |
| 同 | 簡 仁 一 (茨 木) |

国際親善奨学生が留学中及び帰国後に於けるロータリー及び財団学友P S C会員の役割を充分意識行動していただく為に次の事項を計画実行致します。

- (1) 財団学友委員会を2カ月に一度(偶数月)定期的に国際交流センターにて開催する。
- (2) P S C例会を2カ月に一度(偶数月)定期的に国際交流センターにて午後7時より午後8時45分迄開催し、帰国留学生の交歓場所として充実を図る。P S C例会へは国際親善奨学生及び顧問ロータリアンにも引き続き出席していただく。
- (3) 8月20日(土)に91年～93年3年間の国際親善奨学生の帰国歓迎会を開催する。
- (4) P S CニュースをP S C例会の都度作成し、各クラブへ送付する。P S Cニュースを年1回まとめてP S C便りを作成配布する。又、学友会名簿を年1回6月に発行する。
- (5) P S C運営協力金として国際親善奨学生候補者のスポンサークラブより、1名につき年間20,000円をP S Cに対してお支払いいただく。
- (6) P S Cメンバーによる各クラブへの卓話を実行する。
- (7) 国際親善奨学生が留学先のホストクラブにてロータアクトクラブへ入会するように指導する。又、帰国後も2660地区のいずれかのロータアクトクラブへの入会出来るよう指導する。
- (8) 昨年に引き続き、P S C例会に出席していただく顧問ロータリアンには当日登録料として10,000円を支払っていただき、当日の食事代及びP S C活動資金に入れさせていただきます。

研究グループ交換委員会

| | | |
|------|------|---------|
| 委員長 | 大内昭男 | (大阪鶴見) |
| 副委員長 | 檀村泰信 | (摂津) |
| 委員 | 細江重 | (大阪東淀) |
| 同 | 橋本公宏 | (池田) |
| 同 | 松岡茂雄 | (大阪鶴見) |
| 同 | 力石恒夫 | (八尾) |
| 同 | 大野忠雄 | (大阪梅田東) |
| 同 | 熊澤忠躬 | (守口) |

研究グループ交換（GSE）はロータリー財団の教育活動として、国際的な相互理解を推進するため、個人対個人レベルでのユニークな機会を提供するものです。GSEは国を異にする2つのロータリー地区が、若い専門職業人のチームを交換し、お互いの相手国の諸制度や人々について学びあうことを可能にします。このプログラムの成功は、多くの人の協力と努力いかにかかっています。研究チームは帰国後、相手国の人々から得た知識を自国内に広める義務を持ちます。

1) 1994～1995年度、研究グループ交換の相手地区について。

R I、第2400地区（南スウェーデン）と決定しました。これは、両地区のガバナー・ノミニー（当地区中野GN）が本年3月、アナハイムの協議会で会い、1995年の春、お互いの地区大会をはさんで約5週間の交換に合意し、R Iからも承認されました。現在、第2400地区GSE委員長イングマル・アンデルソン氏と詳しい日程等について、FAXで交信中ですが、受入、派遣とも、95年5月～6月に両地区同時に実施する予定です。

2) 派遣について。

- 団長1名（ロータリアン）当地区内クラブの推薦に基き、GSE委員ほかの選考委員が決定する。原則として英会話に堪能で、リーダーシップを備えた方が条件となる。
- 団員4名。日本国籍を有する25才以上の男女。ロータリアン以外の専門職業人で、

当地区内に居住もしくは当地区内に勤務先を持つ方。長期間の訪問につき、勤務先の了解を得られる方。英会話能力が必要。観光ではなく、日常生活（ホームステイ）を通じての国際相互理解と相手地区の特色ある職業研修に関心のある方を派遣したい。

- 当地区在住のスウェーデン人ボランティアより、オリエンテーションを受け、事前準備を万全にして、訪問時のより深い理解を助けてたい。

3) 受け入れについて。

- 団長を含む各人とも、滞在中1週間、1家庭でホームステイのお願いをしたい。5週間5名のメンバーで、計25家庭のホスト家庭団を編成することになる。
- 原則として土曜日の夜はホテル宿泊。日曜日にホスト家庭に移動。月曜日より次週の研修に入る日程とする。
- ホスト家庭引き受け希望家庭の調査表を各クラブよりご提出願ひ、GSEホスト家庭候補のデータベースをつくる。先方の派遣団員構成が判明次第、職業分類、家族構成、住所などを考慮して、GSE委員会より各ブロック及びクラブを通じてホームステイの引受けをお願いする。
- 各週とも、職業研修日（1～2日、先方との協議で日数決定）を設け、当地区ロータリアンの職業分類をフルに生かしたい。
- その他の訪問先の選定についても、先方と連絡を密にし、テーマ意識を持って研究グループ交換の重要な目的である国際的相互理解を深めたい。
- 訪問先、見学先のアイデアを各クラブより頂戴したい。ご紹介頂くロータリアン名とともにデータベースに登録し、今回に限らず、GSEの計画資料としたい。
- 当地区あるいは日本全体について、先方へ事前に情報提供し、交換の実をあげたい。
- 当地区GSE委員会では、第2400地区とのFAX交信による先方の情報、当地区の進行状況などを「GSE情報」としてまとめ関係者に配布している。現在、第3号まで発行。

財 団 情 報 委 員 会

委員長 田 中 穰 二 (大阪西南)

副委員長 増 田 鼎 (八 尾)

委 員 西 川 豊 蔵 (高 槻 東)

委員会の方針

財団情報委員会は従来財団増進委員会が兼務して来たが、本年度より単独委員会として発足することになった。当委員会は財団各委員会、とくに財団増進委員会との緊密な連絡をとりながら“情報は参加と支援の鍵”をモットーに、各クラブにロータリー財団情報を提供し財団活動に対する理解と参加につとめる。

事業計画

- 1) 財団情報ニュース (年4回の予定) を発行しロータリアンの財団に対する関心と理解を深める。
- 2) 財団資料 (出版物・視聴覚資料など) の収集につとめ各クラブに紹介する。
- 3) 財団増進委員会との合同委員会を随時開催する。

米 山 奨 学 部 門

担当パスト・ガバナー 坂 東 宏 (吹 田)

米 山 奨 学 委 員 会

委 長 增 本 猛 (茨 木 東)

副委員長 渡 辺 斌 (東 大 阪 中)

委 員 崎 山 耕 作 (大 阪 住 吉)

同 板 垣 周 男 (豊 中 - 大 阪 国 際 空 港)

同 澁 谷 敏 郎 (大 阪 北)

同 三 好 三 郎 丸 (大 阪 天 満 橋)

同 清 基 英 昭 (池 田)

同 西 原 漸 (高 槻 東)

同(学友担当) 平 岡 龍 人 (大 阪)

I 募 金 目 標

- 1人当り2万円(普通寄付と特別寄付の合計額)
- 地区総額約1億1千万円

(1) 普通寄付

1人当り5千円以上お願いする。

(2) 特別寄付

全会員の皆さんに準功労者となっていただくようお願いし、寄付金については免税措置のあることを強調して、米山ファンドフェロー、米山功労者、米山功労法人等になっていただくようお願いする。

II 1995 学 年 度 米 山 奨 学 生 選 考 試 験 に つ い て

1. 申し込み期間 1994年10月1日(土)～10月15日(土)

- | | | |
|-----------|---------------|---------------------|
| 2. 書類審査 | 1994年11月 日() | 地区委員による資格審査と申込書チェック |
| 3. 書類選考会議 | 1994年12月 日() | 専門委員・地区委員にて行う |
| 4. 面接試験 | 1995年 2月 日() | 専門委員・地区委員にて行う |
| 5. 最終選考会議 | 1995年 2月 日() | 専門委員・地区委員にて行う |

専門委員：文科系、理科系、医科系各2名宛専門部門のロータリアン計6名委嘱する。

地区委員：ガバナー、ガバナーミニ、地区米山奨学部門担当パストガバナー、
(財)米山記念奨学会地区担当幹事、地区米山委員長の計5名とする。

クラブ米山奨学会(CY)申込の受付

1994年8月1日(月)～8月16日(火)

1995年3月1日(水)～3月11日(土)

Ⅲ 米山月間〔1994年10月1日(土)～10月31日(月)〕

- 各クラブに於て米山奨学委員長、米山奨学生による卓話をお願いする。
- 依頼があれば地区委員、米山奨学生、学友を斡旋する。
- 特別寄付の増額と米山奨学事業への理解と協力をお願いする。

Ⅳ 1994学年度米山奨学生〔1994年4月～1995年3月〕

| | |
|-------|-----|
| 継続受給者 | 24名 |
| 新規奨学生 | 23名 |
| クラブ米山 | 4名 |
| 合計 | 51名 |

V 在日米山学友会（関西）への援助

米山奨学事業の発展に寄与することを目的として設立された在日米山学友会（関西）を援助し、現及び元米山奨学生間の交流を通じ、その活動に積極的に参加する。

（本年度も引き続き学友担当地区委員1名をおく。）

VI 行事日程表

| 年 / 月 / 日 | 行 事 | 備 考 |
|----------------------|---------------------------------------|-----------------------|
| 1994年 5月18日(水) | 米山奨学生オリエンテーション | 薬業年金会額 401・402・301 |
| 5月28日(土) | 1994～95年度 地区協議会 | 都ホテル大阪 |
| 6月5日(日) | 1994年在日米山奨学生学友会（関西） 総会及び新入生歓迎パーティー | 大阪国際交流センター |
| 9月 日() | クラブ米山奨学委員長会議 | |
| 10月1日(土) 31日(月) | 米 山 月 間 | |
| 10月1日(土) 15日(土) | 1995年度米山奨学生募集 | |
| 10月 日() | 米山奨学生レクリエーション | |
| 1995年2月 日() 日() | 米山奨学生面接試験 | |
| 2月 日() | 米山奨学生最終選考会議 | |
| 3月 日() | 米山奨学生終了者歓送会 | |
| 4月 日() | 米山奨学生新規世話クラブ決定 | |
| 4月 日() ～ 日() | 国際ロータリー第2660地区 1994～95年度 地区大会 | |

拡 大 部 門

担当パスト ガバナー 武 尾 敬之助 (大阪西北)

拡 大 委 員 会

| | |
|---------|---------------------|
| 委員 長 | 杉 本 一 三 (八 尾) |
| カウンセラー | |
| 副 委 員 長 | 森 藤 憲 一 (大 阪 城) |
| カウンセラー | |
| カウンセラー | 藤 本 眞一郎 (大 阪 堂 島) |
| 委 員 | 小 西 豊 和 (守 口) |
| 同 | 崎 島 七 郎 (大 阪 住 之 江) |
| 同 | 松 島 磐 (寝 屋 川) |

活 動 方 針

本年度のクラブ拡大について、ガバナーより強く要請されていますので、その達成に努力したい。

活 動 計 画

数年来の当委員会の申し送り事項である、淀川左岸地域並びに大阪南港地域での拡大について、平成6年当初より関係がクラブにお願いして、その達成に努力する。

ローターの友

地区委員 馬場 雄三（大阪阪南）

I 「ロータリーの友」委員会

ロータリーの友委員会は本年も例年通り原則として奇数月の第1月曜日に東京において開催されます。

今年度も7月4日東京プリンスホテルにおいて、新地区委員オリエンテーション、新旧委員合同会議、懇親会を行い、新年度の諸事項に就いて検討し、運営方針を決定いたします。

II 「ロータリーの友」への出稿

地区委員として「地区のたより」「わがまち、わが地区」のページの編集を担当します。掲載号は未定。

III 活動方針

中野董夫ガバナーの方針により、地区広報雑誌委員長、クラブ雑誌委員長と協力して例年の活動方針を踏集し、親しみ易く、役に立つ「ロータリーの友」となるよう広く会員の投稿を呼びかけ、お願いしてきたいと思います。

財 務 委 員 会

委員長 吉 田 英 哲 (大阪阪南)

委員 中 村 憲 次 (茨 木)

同 阪 秋 廣 (大阪阪南)

同 中 谷 隆 三 (守 口)

会 計 中 谷 龍 石 (大阪阪南)

1994～95年度の収支予算の編成にあたり、93～94年度次期繰越金1,150万円と94～95年度に計上した予算繰越金1,690万円との差額540万円は、93～94年度繰越金(予算)1,900万円が実算では2,440万円となったため、その増加額540万円を修正したためのものである。又、国際ロータリー第2660地区ガバナーノミニー事務所を開設するに当り、弁天町駅前開発土地信託共同受託者に差入れている敷金6,776,700円については、別途考慮することとし、本予算書には未計上にした。

I 収 入

- (1) 地区資金の基礎となる個人分担金は15,000円を据え置き、従来会員数は100名～150名の漸増を考慮して計上されているが、諸般の状況から会員数の増加は期待薄であると考え、前年度と同数とした。
- (2) 前年度繰越金については前記の通りである。

II 支 出

前年度予算及び実績並びに本年度活動計画を参考とし、一部の委員会に於て増減はあるものの、ほぼ要求通りとしたが、事務所経費の大巾増額の為、止むを得ず予備費の減額を行なった。

- (1) 研究グループ交換委員会は本年も受入れがあり、前年度と同額とした。
- (2) ロータリー財団部門に於て、今年度新に財団情報委員会が設置されたので予算を計上した。
- (3) ロータリー活動の低迷は許されず、一方地区資金の将来の見通しはきびしいことから、会議費の節減を各委員会にお願いすることとした。

(南支那人) 田 美 田 古

(南支那人) 正 林 田 希

地 区 大 会

委員長 松本重太郎（大阪阪南）

プログラム
委員長 吉田英哲（大阪阪南）

幹事 田村弘（大阪阪南）

(1) ガバナー就任の前年度より、地区代表幹事、プログラム委員長、担当地区幹事を中心として、大会準備委員会を発足させ、ガバナーの基本方針に則り、全体の構想に就いて練って来ました。一方本年当初(7月)に各クラブに対し、地区大会の在り方についてのアンケート調査を実施し、その集計結果を勘案しつつ、9月から実行委員会に移し、細部に亘って検討し実行に移していく予定であります。

(2) 地区大会の日程及び開催場所

平成7年（1995年）5月12日（金） 於 都ホテル大阪

部門別懇談会

婦人のつどい

R I 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

平成7年（1995年）5月13日（土） 於 フェスティバルホール

本会議

記念ゴルフ大会は開催するか如何かはアンケート調査結果により、決定したく思います。

(3) 地区大会の内容については、時節柄できる限り華美になることを避けつつ、一方親睦の和につながる楽しい集いになるような大会でありたいと考えています。

1994～95年度 国際ロータリー第2660地区

収 支 予 算 書

作成 1994年3月1日
承認 1994年5月28日

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | 94～95年度予算額 | 93～94年度予算 |
|-----------------------|-------------|-------------|
| 前期繰越金 | 16,900,000 | 19,000,000 |
| R. I. 交付金 | 800,000 | 800,000 |
| 地区資金 (15,000円×5,600人) | 84,000,000 | 84,000,000 |
| 雑収入 | 700,000 | 700,000 |
| 合 計 | 102,400,000 | 104,500,000 |

ガバナー 中野 董夫
財務委員長 吉田 英哲
会 計 中谷 龍石

支出の部

(単位：円)

| 科 目 | 94～95年度予算額 | 93～94年度予算 | |
|-------------|----------------|------------|------------|
| 委員会活動費 | 27,090,000 | 28,040,000 | |
| クラブ奉仕部門 | 地区ガバナー指名委員会 | 200,000 | 200,000 |
| | 意義ある業績賞委員会 | 50,000 | 50,000 |
| | 会員増強委員会 | 200,000 | 200,000 |
| | 広報・雑誌委員会 | 500,000 | 900,000 |
| 職業奉仕部門 | 規定・情報委員会 | 600,000 | 600,000 |
| | 職業奉仕委員会 | 400,000 | 400,000 |
| 社会奉仕部門 | ボランティア委員会 | 150,000 | 150,000 |
| | 社会奉仕委員会 | 1,300,000 | 1,300,000 |
| 青少年奉仕部門 | 環境保全委員会 | 290,000 | 250,000 |
| | 青少年活動委員会 | 2,600,000 | 2,600,000 |
| | インターアクト委員会 | 3,200,000 | 3,200,000 |
| 国際奉仕部門 | ローターアクト委員会 | 5,700,000 | 5,700,000 |
| | 世界社会奉仕委員会 | 200,000 | 200,000 |
| | 青少年交換委員会 | 500,000 | 500,000 |
| ロータリー財団部門 | 国際交流平和委員会 | 250,000 | 250,000 |
| | ロータリー財団委員会 | 100,000 | 100,000 |
| | 財団情報委員会 | 100,000 | 0 |
| | 財団増進委員会 | 200,000 | 240,000 |
| | 国際親善奨学金委員会 | 1,700,000 | 1,750,000 |
| | 研究グループ交換委員会 | 7,000,000 | 7,000,000 |
| 米山奨学部門 | 財団学友委員会 | 750,000 | 750,000 |
| 米山奨学委員会 | 700,000 | 700,000 | |
| 拡大部門 | 委員会活動予備費 | 200,000 | 800,000 |
| 議 費 | 7,920,000 | 9,220,000 | |
| 日本国内地区ガバナー会 | 地区大会補助 | 300,000 | 300,000 |
| | 地区協議会補助 | 300,000 | 300,000 |
| | 地区委員会 | 3,500,000 | 4,000,000 |
| | ガバナー打合せ会議費 | 2,000,000 | 2,500,000 |
| | R. I. 会長記念品代 | 160,000 | 160,000 |
| | 同上歓迎費 | 370,000 | 370,000 |
| | 直前ガバナー記念品代 | 260,000 | 260,000 |
| | G. N. 国際会議参加補助 | 830,000 | 830,000 |
| | 予備費 | 200,000 | 500,000 |
| | 200円×5,600人 | 1,120,000 | 1,120,000 |
| ロータリー文庫協力費 | 300円×5,600人 | 1,680,000 | 1,680,000 |
| 地区大会分担金 | 3,000円×5,600人 | 16,800,000 | 16,800,000 |
| ガバナー事務所経費 | ガバナー月信印刷費 | 10,200,000 | 10,000,000 |
| | 製版・印刷・送料・ホルダー | 10,000,000 | 9,500,000 |
| 予備費 | 200,000 | 500,000 | |
| ガバナー事務所経費 | 32,800,000 | 26,140,000 | |
| 合 計 | 97,610,000 | 93,000,000 | |
| 次 期 繰 越 金 | 4,790,000 | 11,500,000 | |

| | 94年12月末 | 94年3月末 |
|------|----------|--------|
| クラブ数 | 78 | 78 |
| 会員数 | 5,600(予) | 5,497 |

(単位：円)

| ガバナー事務所経費内訳 | | |
|-------------|------------|------------|
| 科 目 | 94～95年度予算額 | 93～94年度予算額 |
| 借室料・光熱費 | 7,920,000 | 3,250,000 |
| 賃金給料 | 15,400,000 | 13,200,000 |
| ガバナー交通会合費 | 1,300,000 | 1,300,000 |
| 印刷費 | 1,800,000 | 1,800,000 |
| 交通通信費 | 2,500,000 | 2,400,000 |
| 文 献 費 | 160,000 | 160,000 |
| 事務用消耗品費 | 1,200,000 | 1,100,000 |
| 什器備品費 | 720,000 | 600,000 |
| 雑 費 | 1,600,000 | 1,800,000 |
| 予 備 費 | 200,000 | 530,000 |
| 合 計 | 32,800,000 | 26,140,000 |

1994年12月21日

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|-----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 王德明 | 男 | 1945.10 | 山东烟台 | 本科 | 硕士 | 副教授 | 烟台大学 |
| 李国强 | 男 | 1952.05 | 河南郑州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 张为民 | 男 | 1958.03 | 江苏南京 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 赵子龙 | 男 | 1965.08 | 湖北武汉 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 孙文杰 | 男 | 1970.12 | 浙江杭州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 刘永刚 | 男 | 1968.07 | 四川成都 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 陈永刚 | 男 | 1972.02 | 广东广州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 1975.09 | 湖南长沙 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 1978.04 | 安徽合肥 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 1980.11 | 福建福州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 冯永刚 | 男 | 1982.06 | 广西梧州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 朱永刚 | 男 | 1985.01 | 江西九江 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 高永刚 | 男 | 1988.08 | 山西太原 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 何永刚 | 男 | 1990.03 | 陕西西安 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吕永刚 | 男 | 1992.10 | 云南昆明 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|---------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 宋永刚 | 男 | 1995.05 | 贵州贵阳 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 林永刚 | 男 | 1998.12 | 海南海口 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 2001.07 | 宁夏银川 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 2004.02 | 新疆乌鲁木齐 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 2007.09 | 内蒙古呼和浩特 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|--------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 孙永刚 | 男 | 2010.04 | 吉林长春 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 李永刚 | 男 | 2013.11 | 黑龙江哈尔滨 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 张永刚 | 男 | 2016.08 | 辽宁沈阳 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 赵永刚 | 男 | 2019.03 | 河北石家庄 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 孙永刚 | 男 | 2022.10 | 山西太原 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|-----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 王德明 | 男 | 1945.10 | 山东烟台 | 本科 | 硕士 | 副教授 | 烟台大学 |
| 李国强 | 男 | 1952.05 | 河南郑州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 张为民 | 男 | 1958.03 | 江苏南京 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 赵子龙 | 男 | 1965.08 | 湖北武汉 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 孙文杰 | 男 | 1970.12 | 浙江杭州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 刘永刚 | 男 | 1968.07 | 四川成都 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 陈永刚 | 男 | 1972.02 | 广东广州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 1975.09 | 湖南长沙 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 1978.04 | 安徽合肥 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 1980.11 | 福建福州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 冯永刚 | 男 | 1982.06 | 广西梧州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 朱永刚 | 男 | 1985.01 | 江西九江 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 高永刚 | 男 | 1988.08 | 山西太原 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 何永刚 | 男 | 1990.03 | 陕西西安 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吕永刚 | 男 | 1992.10 | 云南昆明 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|---------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 宋永刚 | 男 | 1995.05 | 贵州贵阳 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 林永刚 | 男 | 1998.12 | 海南海口 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 2001.07 | 宁夏银川 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 2004.02 | 新疆乌鲁木齐 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 2007.09 | 内蒙古呼和浩特 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|--------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 孙永刚 | 男 | 2010.04 | 吉林长春 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 李永刚 | 男 | 2013.11 | 黑龙江哈尔滨 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 张永刚 | 男 | 2016.08 | 辽宁沈阳 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 赵永刚 | 男 | 2019.03 | 河北石家庄 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 孙永刚 | 男 | 2022.10 | 山西太原 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|-----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 王德明 | 男 | 1945.10 | 山东烟台 | 本科 | 硕士 | 副教授 | 烟台大学 |
| 李国强 | 男 | 1952.05 | 河南郑州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 张为民 | 男 | 1958.03 | 江苏南京 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 赵子龙 | 男 | 1965.08 | 湖北武汉 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 孙文杰 | 男 | 1970.12 | 浙江杭州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 刘永刚 | 男 | 1968.07 | 四川成都 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 陈永刚 | 男 | 1972.02 | 广东广州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 1975.09 | 湖南长沙 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 1978.04 | 安徽合肥 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 1980.11 | 福建福州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 冯永刚 | 男 | 1982.06 | 广西梧州 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 朱永刚 | 男 | 1985.01 | 江西九江 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 高永刚 | 男 | 1988.08 | 山西太原 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 何永刚 | 男 | 1990.03 | 陕西西安 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吕永刚 | 男 | 1992.10 | 云南昆明 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

1994年12月21日

| | | | | | | | |
|-----|----|---------|---------|----|----|----|------|
| 姓名 | 性别 | 出生年月 | 籍贯 | 学历 | 学位 | 职称 | 工作单位 |
| 宋永刚 | 男 | 1995.05 | 贵州贵阳 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 林永刚 | 男 | 1998.12 | 海南海口 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 周永刚 | 男 | 2001.07 | 宁夏银川 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 吴永刚 | 男 | 2004.02 | 新疆乌鲁木齐 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |
| 郑永刚 | 男 | 2007.09 | 内蒙古呼和浩特 | 本科 | 学士 | 讲师 | 烟台大学 |

